

編集 後記

本号の原著、公衆衛生活動報告6編の中で、行動変容プログラムに関する報告(介入研究)が一件みられる。後は、所謂分析的疫学に属する研究である。このような分析疫学への偏りは今に始まったことではないが、生活行動に起因する慢性疾患が優勢になって久しいのに、行動変容やアウトカムである疾患や病的状態の減少を伝える報告が少ないのは、どうしたことか。分析(解釈)ばかりではなく、予防介入の試みをもっと積極的に展開されることを望みたい。予防介入となれば、アンケートあるいはバイオマーカーと多変量解析といったお決まりの道具立てでは済まない。質的研究、行動・コミュニケーション理論などに基づく介入の設計、プログラム管理、(準)実験的デザインなどが必要となる。そもそも学者や保健医療従事者だけでは済まなくなる。こうした経験が誌上で交流されるようになれば、もっと豊かな公衆衛生が生まれることだろう。

私見ではあるが、公衆衛生もいずれは一部民間化が避けられないと考えている。米国では、マネージドケアに押されて公衆衛生が予算面で劣勢に立たされているという。公衆衛生が直面する課題や新しい課題の、「解釈」ではなく「解決」に貢献する内実を蓄積しなければ、徐々にアウトリソーシングが始まり、公衆衛生の外からの「構造改革」が進行するかもしれないと憂慮している。公衆衛生の構造改革は、公衆衛生内部からでありたい。(木原正博)

次号予告

総説

費用対効果からみた医療費抑制策…大重賢治, 他
原著

痴呆患者の7年間の生命予後に影響する要因分析
……………元永拓郎, 他

茨城県におけるアレルギー性鼻炎受療率に及ぼす
スギ花粉飛散量, 大気汚染, 都市化の影響
……………呉春玲, 他

加速時計による1日のエネルギー消費量測定の妥
当性
……………児玉宜子, 他

在宅高齢女性における日常生活動作の日常レベル
と生活習慣の関連……………柳堀朗子, 他

高齢者の家族における介護の肯定的認識と生活の
質(QOL), 生きがい感および介護継続意志と
の関連 続柄別の検討他……………山本則子, 他

特定疾患治療研究対象疾患評価に関する研究
……………伊津野孝, 他

公衆衛生活動報告

在宅酸素療法患者の生活活動範囲と居住環境の
関連……………武田賢治, 他

歯科医師による喫煙防止教育とその有効性に
ついて……………小田正秀, 他

資料

高松市郊外における大気中浮遊粒子状物質の粒径
別濃度に関する検討……………須那 滋, 他

社会疫学研究会/日本衛生学会ワークショップによる公開シンポジウムのお知らせ

Symposium "Social Epidemiology in Japan: State-of-Art and Future" 「社会疫学—わが国の現状と将来」

日時: 平成14年8月7日(水) 13:00-17:00

場所: 国立保健医療科学院2階 交流大会議室

(埼玉県和光市南2-3-6、交通アクセスは<http://www.iph.go.jp>を参照)

主催: 社会疫学研究会

日本衛生学会ワークショップ「社会疫学の理論、研究手法および健康政策への応用」

国立保健医療科学院

スケジュール:

基調講演 "New Frontiers of Research in Social Epidemiology"

Ichiro Kawachi, MD, PhD (Harvard School of Public Health)

現状報告: 橋本英樹(帝京大学)、西 信雄(岩手医科大学)

パネルディスカッション: Ichiro Kawachi、橋本英樹、西 信雄、

中山健夫(京都大学)、土井由利子(国立保健医療科学院)

連絡先: 岡山大学大学院医歯学総合研究科衛生学予防医学分野

TEL: 086-235-7173 E-mail: eisei@md.okayama-u.ac.jp

国立保健医療科学院疫学部社会疫学室

TEL: 048-458-6111 (内線2511) E-mail: yuriko@iph.go.jp